

事業者向け放課後等デイサービス事業所自己評価表

		チェック項目	はい	どちらともいえない	いいえ	改善目標、工夫している点など
環境・体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	○			広く自由に動けるスペースが十分に確保されており、子どもの安全にも配慮している。
	2	職員の配置数は適切である	○			職員全員が有資格者である。
	3	事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされている		○		デイルームは完全にバリアフリーであり、子どもの安全に配慮した作りである。今後、トイレ段差の改善を予定している。
業務改善	4	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	○			職員全員が目標設定と振り返りに参画している。
	5	保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	○			保護者からの評価を全員で共有・協議し、よりよいサービスにつなげるようにしている。
	6	この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開している	○			ホームページで公開している。
	7	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている			○	必要に応じて、実施を検討していきたい。
	8	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	○			所内研修や外部講師による研修を、定期的・計画的に実施している。
適切な支援の提供	9	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成している	○			子どもと保護者のニーズを重視し、個々の目標や支援計画を立てている。
	10	子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している	○			標準化されたツールは使用していないが、行動観察や聞き取りなどにより適応行動の状況を把握している。
	11	活動プログラムの立案をチームで行っている	○			スタッフ全員がチームとなって計画・立案している。
	12	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	○			季節の行事に応じた活動を取り入れている。また、知育玩具なども活用し、身体状況・発達状況に応じ個別にプログラムを組んでいる。
	13	平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援している	○			個別支援計画に沿って長期休暇中の課題を個別に設定し、支援している。
	14	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成している	○			子どもの状況に応じて、個別と集団の活動を組み合わせながら計画を作成している。
	15	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	○			職員の打合せをきめ細かに行い、その日利用する子どもの変化や気になることなどを共有し、具体的支援内容や役割分担を確認している。
	16	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気づいた点等を共有している	○			気づいた点や支援の振り返りなどはその日のうちに話し合い、共有している。
	17	日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	○			支援内容、子どもの状態、申し送り等の記録を適切に行い、支援の検証・改善に役立っている。
	18	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断している	○			定期的にモニタリングを行い、計画の見直しの必要性を判断している。
関係機関や保護者との連携	19	ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせ支援を行っている	○			様々な活動に取り組み、子どもの意欲を引き出し、成功体験の積み重ねを大切に、自信とさらなる意欲につなげるようにしている。また、武家屋敷散策等の機会を設け地域との交流を行っている。
	20	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	○			担当者会議には、児童発達支援管理責任者が参加することになっている。
	21	学校との情報共有(年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等)、連絡調整(送迎時の対応、トラブル発生時の連絡)を適切に行っている	○			学校と年間計画や行事予定、下校時刻等の情報を共有・連絡調整するとともに、送迎時に担任の先生等とも情報を共有している。
	22	医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えている		○		現在、対象児童はいない。
	23	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めている		○		関係機関との情報共有を行ったり、相談支援専門員より情報を得たりしている。
	24	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等している		○		現在、対象児童はいない。
	25	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている		○		専門機関の支援を受け、研修にも参加している。
	26	放課後児童クラブや児童館との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある			○	コロナ禍のため、実施が難しい状況にある。
	27	(地域自立支援)協議会等へ積極的に参加している			○	機会に恵まれれば、積極的に参加したい。
	28	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	○			連絡帳や送迎時に活動の状況や様子を伝え、情報共有している。
	29	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っている		○		保護者からの相談等に応じて、支援するようになっている。
	30	運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	○			契約時に重要事項説明書とあわせて説明を行っている。
	31	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	○			保護者からの相談等に応じて、必要な助言と支援を行うようになっている。

保護者への説明責任等	32	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している			○	コロナ禍のため、実施が難しい状況にある。
	33	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応している	○			苦情があった場合は、速やかに対応を協議し、誠実に対応している。
	34	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	○			ホームページ等で、積極的に活動や行事の様子などを発信している。
	35	個人情報に十分注意している	○			個人情報については、厳重に管理している。
	36	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	○			子どものちょっとしたサインを見逃さないようにしたり、連絡帳への記入や分かりやすい説明を心がけたりして、配慮している。
	37	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている		○		町内会とは相互に交流する計画を立てているが、コロナ禍のため実施が難しい状況にある。
非常時等の対応	38	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知している	○			随時、確認し合っている。
	39	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	○			年2回災害を想定した訓練を行い、スタッフ全員が役割を把握し、子どもとスタッフの安全を心掛けている。
	40	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	○			受講者が伝達研修を行い、通報の義務や虐待防止の考え方等を共有している。
	41	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載している	○			身体拘束は、行っていない。
	42	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている		○		現在、対象児童はいない。
	43	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	○			随時ヒヤリハットの記録をしている。その都度話し合い、今後の対応を改善するようにしている。